



取組事例の名称	大郷町乳幼児総合教育施設災害復旧工事(第3工区)
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓</p> <p>当初設計の掘削法面勾配は1:1であったが、土質調査等による再検討では1:1.5の法面勾配が必要であったこと、崩壊法面及び法尻部からの湧水が多く基盤排水（法尻から地区外のため池までの暗渠排水）、供用後の斜面地下水位の上昇を防止するために法尻部の碎石置換などの設計変更に多大な労力を費やした。</p>	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <p>乳幼児総合教育施設は、地震による法面崩壊後、旧施設へ避難していたが、卒園式の準備の関係で、工期前に本施設に戻ることが要求された。このため、工程短縮案を検討し、厳しい要求工程内に工事を完了することができた。これに関しては大いに感謝された。</p>	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <p>改良土は一般に透水性が小さいため斜面の地下水位上昇を誘発する恐れがあることから、崩壊部の盛土で適用できる強度が高く透水性の高い改良土（現場製作、転圧不要）が望まれる。</p>	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <p>震災の復旧は、原形復旧が基本のようであるが、将来の安全を考える時、付加的な安全対策を施工できる仕組み作りも必要であると感じた。</p>	
NETIS登録	